

部活動の活性化を目指した教育活動の工夫 ～体験的な活動を通して～

**沖縄県今帰仁村立
今帰仁中学校**
な き じ ん
 全校生徒数305名
 (男子145名 女子160名)
 電話番号 0980 (51) 5666

実践内容

実施目的

- ①学校・家庭・地域・行政が連携し、一村一校の中学校の活性化や体力の向上及び部活動の活性化を図り、生徒の心身の発達や夢や希望を育成する。
- ②様々なスポーツを体験させ、総合的な部活動を実施することで中学生の時期の心身の発達や総合的な体力の向上や身体能力の向上を図る。
- ③文部科学省・今帰仁村教育委員会の指定を受けた事業を活用し、一流の指導者や競技者を招聘し、生徒の意欲の喚起や競技力を向上する。

実施内容

1 体験活動の取組

(1) 部活動合同合宿の実施

長期休業中に部活動合同合宿を実施し、部活動の全部員を対象に各部活動の強化練習やボランティア活動、生徒の意欲を喚起する講演会を実施する。

(2) 複数競技の体験（総合的な部活動の取組）

シーズンによって陸上競技のトレーニングや部活動に関連する他のスポーツや本村の強化競技であるホッケーを練習・トレーニングに取り入れ体力の向上を図る。

(3) 講演会及び講習会の実施

運動部活動等活性化推進事業(文科省・村指定)の予算を活用し、一流の指導者やアスリートを招聘しての講演会や講習会の実施により、生徒の意欲の喚起と夢や希望を育成する。

(4) ボランティア活動や地域行事に積極的に参加

部活動単位で沖縄県植樹祭・駅伝コースの草刈・運動公園の清掃・村祭り後の清掃活動に参加し豊かな心の育成や精神力の育成を図る。

(5) 青年会や他の団体との体験活動の実施

村青年会と共同で村桜祭りの灯籠づくりを行い、祭りを盛り上げたり、地元の高校と部活動の練習やゲーム等を行う。また、総合型地域スポーツクラブとも連携する。

2 学校全体を挙げての取組

(1) 掲示教育・あいさつ運動・道徳・特別活動での啓発

研究指定の取組の一環で部活動標語を掲示したり、横断幕の設置、部活動掲示板の活用、スポーツ関連の一斉道徳の実施等生徒の意欲の喚起を図る。

(2) 重点努力目標を設定し全校体制で取り組む

①あいさつ運動 ②動作を機敏に・時間厳守 ③聞く態度の育成の3つの事項を努力目標に設定し全校体制で取り組む。

3 地域や保護者の協力

本校部活動では体力向上の取組として、毎朝40分程度の早朝練習（体力づくり）を実施しており、その取組に外部指導者が積極的にかかわり効果を上げている。

実施上で工夫したこと

- ①総合型の部活動を行うため、ホッケー競技や陸上競技等他のスポーツを体験させた。
- ②全校体制、地域・保護者、行政（教育委員会）の連携や協力体制を構築した。
- ③学校の全職員が顧問・副顧問として部活動に積極的にかかわった。

主な成果

- ①生徒の目標や意欲が飛躍的に向上し、朝の自主練習の参加（約90%）や部活動の競技力の向上、さらに学習意欲や豊かな心が育つ等、生徒の成長・学校の活性化につながった。
- ②部活動の競技力が地区大会レベルから県大会・全国大会レベルに向上した。（野球部の全国大会3位、陸上やり投げの全国3位、卓球・ソフトテニスの九州大会出場等）
- ③部活動の取組で学校全体が活性化した。（部活動の加入率89%）
- ④運動部活動の取組で生徒の体力が向上した。（平成21年度全国新体力テストの結果より）



部活動合同合宿

合宿時の学習会(講演会)



総合的な部活動の取組

ホッケー体験の様子(複数競技の体験)



総合的な部活動の取組

全部員による陸上競技の取組



一流の指導者を招聘しての講演会

ソフトテニス 元ナショナルチーム監督



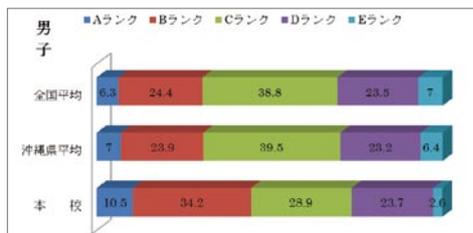
ボランティア活動

村運動公園の清掃活動の様子



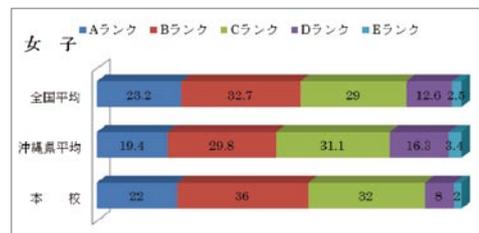
毎朝のあいさつ運動(野球部)

各部ローテーションで活動



平成21年度全国体力テスト結果 男子

平成21年度全国体力テスト結果からみると全国・沖縄県よりもA・Bランクの体力上位層の生徒の割合が多く、Eランクの生徒は少ない。特に、握力、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ、体力総合点が全国より上回る。



平成21年度全国体力テスト結果 女子

女子はA・B・Cランクの体力上位の割合が高く、D・Eランクの体力下位層の割合が低い。また、握力、50m走、立ち幅とび、長座体前屈、反復横とび、ハンドボール投げが全国より上回る。